

加美町林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

令和 3 年 3 月

宮城県加美町

加美町林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

(1) 基本的事項

加美町が管理する林道橋は、令和3年3月現在で17橋である。建設後50年が経過した高齢化橋梁は現在8橋ありますが、10年後には全橋が高齢化橋梁となります。

今後、対症療法型維持管理（事後保全）を進めた場合、橋梁の修繕に要する経費は増大の一途を辿ることは容易に推察されることから、計画的な予防保全型維持管理（予防保全）を行います。

(2) 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりです。

(3) 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりです。

(4) 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりです。

(5) 施設の状態等

本計画の策定に当たって実施した点検・診断により把握された施設毎の状態については別紙のとおりです。

(6) 対策内容と実施時期

上記「施設毎の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施の時期について別紙のとおり計画します。

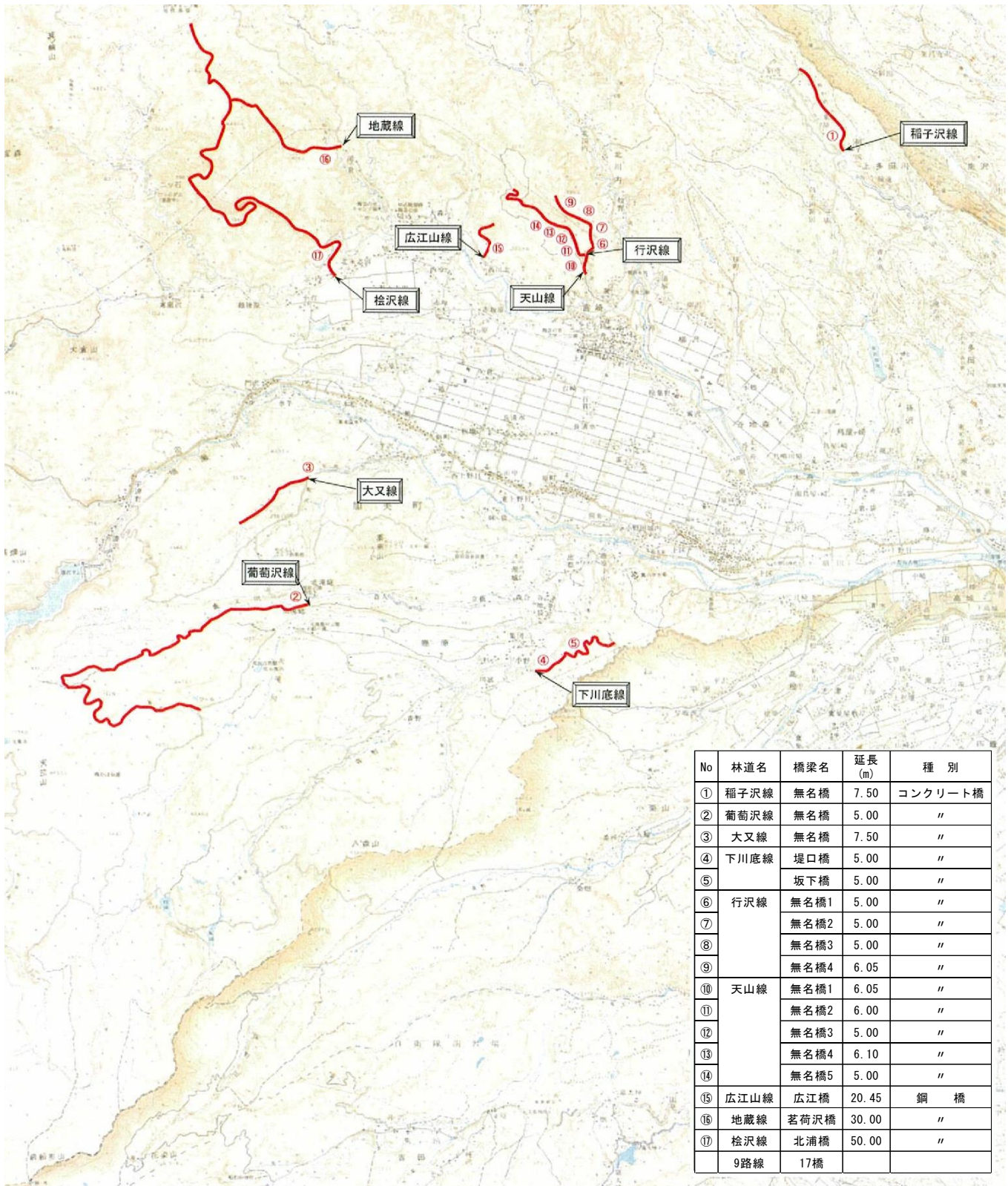
(7) 対策費用

個別施設毎の対策費用の概算については別紙のとおりです。なお、この金額は計画策定時点における概算であり、具体の工事発注時における詳細な設計や社会情勢の変化により、金額に変動が生じる場合があります。

個別施設計画一覧表(橋梁)

個別施設 整理番号	林道台帳 索引番号	路線名	林道種類 及び区分	橋梁名	所在地	起点から の距離	建設 年度	供用 年数	種別	型式	道路橋 示方書	橋格 (設計荷重)	橋下条件	橋長 (m)	幅員 (m)	上部工 型式	橋台工 型式	橋脚工 型式	海岸から の距離 (km)	施設の現況			計画内容				優先度	措置記録					備考		
																				点検実施 年月日	判定区分	所見等	計画期間	内容		実施 予定時期		対策費用 (概算:百万円)	実施 年月日	内容		対策費用 (百万円)		再判定実 施 年 月日	再判定区 分
																								分類	概要(数量)					分類	概要(数量)				
1	2	稲子沢線	自動車道2級	無名橋	大字上多田川	280	1980	40	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和53年度版	TL14	河川	7.5	4.0	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月19日	II	橋台に漏水・湧水	R2~R11	点検	伸縮装置工	R6	1.36	中							
2	7	葡萄沢線	自動車道2級	無名橋	大字葡萄沢	80	1974	46	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	5.0	4.0	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月19日	II	橋台に割離・鉄筋露	R2~R11	点検	断面修復工	R7	0.473	中							
3	11	大又線	自動車道2級	無名橋	大字芋沢	350	1969	51	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	7.5	3.6	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月19日	II	橋台に漏水・湧水	R2~R11	点検	伸縮装置工	R8	1.746	中							
4	16	下川底線	自動車道2級	堤口橋	大字鹿原	80	1977	43	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	5.0	4.0	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月25日	II	橋台に漏水・遊離石屑	R2~R11	点検	伸縮装置工	R9	1.783	中							
5	16	下川底線	自動車道2級	坂下橋	大字鹿原	200	1977	43	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	5.0	4.0	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月25日	II	橋台に漏水・遊離石屑	R2~R11	点検	伸縮装置工	R10	1.36	中							
6	5	行沢線	自動車道3級	無名橋1	大字行沢	250	1969	51	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	5.0	3.0	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月16日	II	橋台に漏水・湧水	R2~R11	点検	伸縮装置工	R11	1.326	中							
7	5	行沢線	自動車道3級	無名橋2	大字北	870	1969	51	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	5.0	3.6	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月16日	II	橋台に漏水・湧水	R2~R11	点検	伸縮装置工	R12	1.584	中							
8	5	行沢線	自動車道3級	無名橋3	大沢北	1120	1969	51	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	5.0	3.6	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月16日	II	橋台に漏水・湧水	R2~R11	点検	伸縮装置工	R13	1.584	中							
9	5	行沢線	自動車道3級	無名橋4	大沢北	1330	1969	51	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	6.1	3.6	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月16日	II	橋台に漏水・湧水	R2~R11	点検	伸縮装置工	R14	1.66	中							
10	6	天山線	自動車道3級	無名橋1	大字行沢	180	1977	43	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	6.1	4.0	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月16日	II	橋台に漏水・湧水	R2~R11	点検	伸縮装置工	R15	1.889	中							
11	6	天山線	自動車道3級	無名橋2	大字北	550	1977	43	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	6.0	6.0	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月16日	II	橋台に漏水・湧水	R2~R11	点検	法面補修工	R16	3.731	中							
12	6	天山線	自動車道3級	無名橋3	大字北	1150	1977	43	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	5.0	4.0	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月16日	II	橋台に漏水・湧水	R2~R11	点検	伸縮装置工	R17	1.764	中							
13	6	天山線	自動車道3級	無名橋4	大字北	1300	1977	43	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	6.1	4.1	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月19日	II	橋台に漏水・遊離石屑	R2~R11	点検	伸縮装置工	R18	1.863	中							
14	6	天山線	自動車道3級	無名橋5	大字北	1800	1977	43	コンクリート橋	コンクリート床版橋	昭和39年度版	TL14	河川	5.0	3.6	コンクリート橋	不明	—	—	令和2年11月19日	II	橋台に漏水・湧水	R2~R11	点検	伸縮装置工	R19	1.584	中							
15	7	広江山線	自動車道2級	広江橋	大字北	860	1969	51	鋼橋	鋼桁橋	昭和31年度版	TL14	河川	20.5	3.7	1桁RCR鋼	不明	—	—	令和2年11月19日	II	橋脚に鉄骨腐蝕の発生、異音	R2~R11	点検	塗装工	R20	2.42	中							
16	10	地藏線	自動車道3級	若荷沢橋	大字湯の倉	30	1968	52	鋼橋	鋼桁橋	昭和31年度版	TL14	河川	30.0	3.6	3桁RCR鋼	不明	—	—	令和2年12月4日	II	橋脚に鉄骨腐蝕の発生、異音	R2~R11	点検	塗装工	R21	2.494	中							
17	13	桧沢線	自動車道2級	北浦橋	大字北	50	1971	49	鋼橋	鋼桁橋	昭和31年度版	TL14	河川	50	4.0	1桁RCR鋼	不明	不明	—	—	令和2年12月3日	II	橋脚に鉄骨腐蝕の発生、異音	R2~R11	点検	塗装工	R22	7.936	中						

位置図



個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号	2	施設管理者	加美町
路線名	稲子沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋
施設の所在地	大字上多田川	起点からの距離	280 m	建設年度	1980
供用年数	40	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和53年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	7.5 m		幅員（車道幅員）	4.5m（ 4.0 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工形式	不明		基礎形式	不明	
橋脚工形式	—		海岸からの距離	km		

施設の目的 利用実態等	林道稲子沢線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。				
----------------	---------------------------------------	--	--	--	--

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月19日			
	調査結果	防護柵に防食機能の劣化や腐食、橋台背面に土砂流出、橋台正面に漏水・滞水が見られる。			
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化要因	防護柵の防食機能の劣化や腐食は経年劣化、橋台の漏水・滞水は遊間からの漏水と考えられる。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度			
	内容	防護柵の防食機能の劣化・腐食は軽微であるため経過観察とする。橋台背面の土砂流出は路面排水の流末を確保する。遊間に非排水型伸縮装置の補修を行う。			
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。		
	対策費（概算）	伸縮装置補修工 1,360 千円			
管理方法	長寿命化対策として、伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、路面排水の流末の整備を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号	7	施設管理者	加美町
路線名	葡萄沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋
施設の所在地	大字葡萄沢	起点からの距離	80 m	建設年度	1974
供用年数	46	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	5.0 m		幅員（車道幅員）	4.7m（ 4.0 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工形式	不明		基礎形式	不明	
橋脚工形式	—		海岸からの距離	km		

施設の目的利用実態等
林道葡萄沢線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月19日	
	調査結果	地覆に変形・欠損、防護柵に変形、ボルトに脱落や腐食、橋面に土砂詰まり、橋台側面に剥離・鉄筋露出が見られる。	
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
	劣化要因	防護柵の変形、ボルトの脱落については外部からの衝撃によるものと考えられる。地覆の変形・欠損や橋台の剥離・鉄筋露出は鉄筋の腐食が原因と考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度	
	内容	防護柵の脱落ボルト再設置、地覆の変形・欠損、橋台の剥離・鉄筋露出は断面修復による補修を行う。	
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。	
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。
	対策費（概算）	防護柵補修工 断面修復工	50 千円 423 千円

管理方法
長寿命化対策として、防護柵の補修、および地覆橋台の断面修復を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号	11	施設管理者	加美町
路線名	大又線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋
施設の所在地	大字芋沢	起点からの距離	350 m	建設年度	1969
供用年数	51	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	7.5 m		幅員（車道幅員）	3.9m (3.6 m)
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工形式	不明		基礎形式	不明	
橋脚工形式	—		海岸からの距離	km		
施設の目的 利用実態等	林道大又線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月19日			
	調査結果	地覆に変形・欠損や剥離・鉄筋露出、橋面に土砂詰まり、橋台正面に漏水・滞水、A1橋台側面に変形・欠損が見られる。			
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化要因	地覆の変形・欠損や橋台の剥離・鉄筋露出は鉄筋の腐食が原因と考えられる。橋台正面の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度			
	内容	地覆の変形・欠損、橋台の剥離・鉄筋露出は断面修復による補修を行う。橋台の漏水・滞水は遊間に非排水型伸縮装置の補修を行う。			
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。		
	対策費（概算）	断面修復工	522 千円	伸縮装置補修工	1224 千円
管理方法	長寿命化対策として、地覆・橋台の断面修復及び伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	4	林道台帳索引番号	16	施設管理者	加美町
路線名	下川底線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	堤口橋
施設の所在地	大字鹿原	起点からの距離	80 m	建設年度	1977
供用年数	43	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	5.0 m		幅員（車道幅員）	4.7（ 4.0 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工形式	不明	基礎形式	不明	
橋脚工形式	—	海岸からの距離	km			
施設の目的 利用実態等	林道下川底線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月25日				
	調査結果	地覆に変形・欠損、橋面に土砂詰まり、橋台にひびわれおよび漏水・遊離石灰が見られる。				
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化要因	地覆の変形・欠損、橋台の剥離・鉄筋露出は鉄筋の腐食が原因と考えられる。橋台正面の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。」				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	地覆及び橋台の変形・欠損や剥離・鉄筋露出は断面修復を行う。橋台正面の漏水・滞水は非排水型伸縮装置の補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。			
	対策費（概算）	断面修復工	423 千円	伸縮装置補修工		
管理方法	長寿命化対策として、地覆橋台の断面修復及び伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	5	林道台帳索引番号	16	施設管理者	加美町
路線名	下川底線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	坂下橋
施設の所在地	大字鹿原	起点からの距離	200 m	建設年度	1977
供用年数	43	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	5 m		幅員（車道幅員）	4.7m（ 4.0 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工形式	不明		基礎形式	不明	
橋脚工形式	—		海岸からの距離	km		
施設の目的 利用実態等	林道下川底線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月25日			
	調査結果	防護柵に変形・欠損、橋面及び排水装置に土砂詰まり、橋台に漏水・遊離石灰が見られる。			
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化要因	防護柵の変形・欠損は外力によるものと考えられる。橋台の漏水・遊離石灰は遊間からの漏水が原因と考えられる。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度			
	内容	橋台の漏水・遊離石灰は遊間に非排水型伸縮装置の補修を行う。			
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。		
	対策費（概算）	伸縮装置補修工	1360 千円		
管理方法	長寿命化対策として、伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。防護柵の変形は部分的であるので維持補修で対応する。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	6	林道台帳索引番号	5	施設管理者	加美町
路線名	行沢線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋1
施設の所在地	大字行沢	起点からの距離	250 m	建設年度	1969
供用年数	51	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	5.0 m		幅員（車道幅員）	3.4m（ 3.0 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工形式	不明		基礎形式	不明	
橋脚工形式	—		海岸からの距離	km		
施設の目的利用実態等	林道行沢線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月16日			
	調査結果	地覆に変形・欠損、橋面に土砂詰まり、橋台正面に漏水・滞水が見られる。			
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化要因	地覆の変形・欠損は経年劣化やタイヤ等の外力によるものと考えられる。橋台正面の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度			
	内容	地覆の変形・欠損は断面修復、橋台の漏水・滞水は遊間に非排水型伸縮装置の補修を行う。			
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。		
	対策費（概算）	断面修復工	306 千円		
	伸縮装置補修工	1020 千円			
管理方法	長寿命化対策として、地覆の変形・欠損は断面修復及び伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	7	林道台帳索引番号	5	施設管理者	加美町
路線名	行沢線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋2
施設の所在地	大字北	起点からの距離	870 m	建設年度	1969
供用年数	51	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	5.0 m		幅員（車道幅員）	4.0m（ 3.6 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工形式	不明	基礎形式	不明	
橋脚工形式	—	海岸からの距離	km			
施設の目的利用実態等	林道行沢線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月16日	
	調査結果	地覆に変形・欠損、橋面に土砂詰まり、主桁に剥離・鉄筋露出、橋台正面に漏水・滞水や遊離石灰が見られる。	
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
	劣化要因	地覆の変形・欠損は経年劣化やタイヤ等の外力による。主桁の剥離・鉄筋露出は地覆からの漏水による鉄筋の腐食。橋台正面の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度		
	内容	地覆の変形・欠損、主桁の剥離・鉄筋露出は断面修復を行うと共に地覆下に水切りを設置する。橋台の漏水・滞水は遊間に非排水型伸縮装置の補修を行う。		
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。		
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。	
	対策費（概算）	断面修復工	360 千円	
	伸縮装置補修工	1224 千円		
管理方法	長寿命化対策として、地覆、床版の断面修復及び伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。			

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	8	林道台帳索引番号	5	施設管理者	加美町
路線名	行沢線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋3
施設の所在地	大沢北	起点からの距離	1120 m	建設年度	1969
供用年数	51	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	5.0 m		幅員（車道幅員）	4.0m（ 3.6 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工形式	不明	基礎形式	不明	
橋脚工形式	—	海岸からの距離	km			
施設の目的利用実態等	林道行沢線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月16日				
	調査結果	地覆に剥離・鉄筋露出、橋面に土砂詰まり、橋台正面に漏水・滞水が見られる。				
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化要因	地覆の剥離・鉄筋露出は鉄筋の腐食が原因と考えられる。橋台正面の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	地覆の剥離・鉄筋露出は断面修復による補修を行う。橋台の漏水・滞水は遊間に非排水型伸縮装置の補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。			
	対策費（概算）	断面修復工	360 千円			
	伸縮装置補修工	1224 千円				
管理方法	長寿命化対策として、地覆の断面修復及び伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	9	林道台帳索引番号	5	施設管理者	加美町
路線名	行沢線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋4
施設の所在地	大沢北	起点からの距離	1330 m	建設年度	1969
供用年数	51	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	6.05 m		幅員（車道幅員）	4.0m（ 3.6 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工形式	不明	基礎形式	不明	
橋脚工形式	—	海岸からの距離	km			
施設の目的利用実態等	林道行沢線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月16日				
	調査結果	地覆に剥離・鉄筋露出、橋面に土砂詰まり、橋台正面に漏水・滞水が見られる。				
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化要因	地覆の剥離・鉄筋露出は鉄筋の腐食が原因と考えられる。橋台正面の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	地覆の剥離・鉄筋露出は断面修復による補修を行う。橋台の漏水・滞水は遊間に非排水型伸縮装置の補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。			
	対策費（概算）	断面修復工	436 千円	伸縮装置補修工		
管理方法	長寿命化対策として、地覆の断面修復及び伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	10	林道台帳索引番号	6	施設管理者	加美町
路線名	天山線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋1
施設の所在地	大字行沢	起点からの距離	180 m	建設年度	1977
供用年数	43	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	6.05 m		幅員（車道幅員）	4.4m（ 4.0 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工形式	不明		基礎形式	不明	
橋脚工形式	—		海岸からの距離	km		
施設の目的利用実態等	林道天山線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月16日			
	調査結果	主桁や地覆に剥離・鉄筋露出、橋面に土砂詰まり、橋台正面に漏水・滞水、A2橋台側面に変形・欠損が見られる。			
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化要因	地覆の剥離・鉄筋露出は鉄筋の腐食、主桁の剥離・鉄筋露出は地覆からの漏水・滞水による鉄筋の腐食、橋台正面の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度			
	内容	地覆、主桁の剥離・鉄筋露出は断面修復を行うと共に地覆下に水切りを設置。橋台の漏水・滞水は遊間に非排水型伸縮装置。橋台の変形・欠損は断面修復で補修する。			
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。		
	対策費（概算）	断面修復工 水切り設置工	479 千円 50 千円	伸縮装置補修工	1360 千円
管理方法	長寿命化対策として、地覆、主桁、橋台の断面修復、水切り設置、伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	11	林道台帳索引番号	6	施設管理者	加美町
路線名	天山線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋2
施設の所在地	大字北	起点からの距離	550 m	建設年度	1977
供用年数	43	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	6.0 m		幅員（車道幅員）	6.4m（ 6.0 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工形式	不明	基礎形式	不明	
橋脚工形式	—	海岸からの距離	km			
施設の目的利用実態等	林道天山線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月16日	
	調査結果	地覆に変形・欠損、橋面に土砂詰まり、橋台正面に漏水・滞水、A2橋台護岸法面に沈下・移動・傾斜が見られる。	
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
	劣化要因	地覆の変形・欠損は経年劣化やタイヤ等の外力によると考えられる。橋台の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。A2橋台護岸法面の沈下・移動・傾斜は河川の増水による洗掘が原因と考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度	
	内容	地覆の変形・欠損は断面修復、橋台の漏水・滞水は遊間に非排水型伸縮装置の補修を行う。法面損傷については護岸ブロック等の法面補修を行う。	
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。	
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。
	対策費(概算)	断面修復工 伸縮装置補修工	691 千円 2040 千円
管理方法	長寿命化対策として、地覆の変形・欠損は断面修復、伸縮装置の補修及び法面補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。		

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	12	林道台帳索引番号	6	施設管理者	加美町
路線名	天山線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋3
施設の所在地	大字北	起点からの距離	1150 m	建設年度	1977
供用年数	43	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	5.0 m		幅員（車道幅員）	4.4m（ 4.0 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工形式	不明	基礎形式	不明	
橋脚工形式	—	海岸からの距離	km			
施設の目的 利用実態等	林道天山線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月16日	
	調査結果	地覆に変形・欠損、橋面に土砂詰まり、橋台正面に漏水・滞水、A2橋台にひびわれが見られる。	
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
	劣化要因	地覆の変形・欠損は経年劣化やタイヤ等の外力によるものと考えられる。橋台の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。A2橋台のひびわれは収縮クラックと考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度		
	内容	地覆の変形・欠損は断面修復。橋台の漏水・滞水は伸縮装置の補修。A2橋台のひびわれはひびわれ補修を行う。		
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。		
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。	
	対策費（概算）	断面修復工 伸縮装置補修工	396 千円 1360 千円	ひびわれ補修工
管理方法	長寿命化対策として、地覆の断面修復、伸縮装置の補修及びひびわれ補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。			

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	13	林道台帳索引番号	6	施設管理者	加美町
路線名	天山線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋4
施設の所在地	大字北	起点からの距離	1300 m	建設年度	1977
供用年数	43	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	6.1 m		幅員（車道幅員）	4.45m（4.05 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工形式	不明	基礎形式	不明	
橋脚工形式	—	海岸からの距離	km			
施設の目的利用実態等	林道天山線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月19日	
	調査結果	地覆にうき、橋面に土砂詰まり、橋台正面に漏水・遊離石灰や漏水・滞水が見られる。	
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
	劣化要因	地覆のうきは鉄筋の腐食、橋台正面からの漏水・遊離石灰や漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度		
	内容	地覆のうきははつり落とし断面修復。橋台の漏水・遊離石灰、漏水・滞水は非排水型伸縮装置の補修を行う。		
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。		
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。	
	対策費（概算）	断面修復工	486 千円	伸縮装置補修工
管理方法	長寿命化対策として、地覆の断面修復、伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行うこと。			

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	14	林道台帳索引番号	6	施設管理者	加美町
路線名	天山線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋5
施設の所在地	大字北	起点からの距離	1800 m	建設年度	1977
供用年数	43	種別	コンクリート橋	形式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	5.0 m		幅員（車道幅員）	4.0m（ 3.6 m）
	施設の構造等	上部工形式	コンクリート床版桁			
			鋼製（使用鋼材）	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工形式	不明	基礎形式	不明	
橋脚工形式	—	海岸からの距離	km			
施設の目的利用実態等	林道天山線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年11月19日				
	調査結果	地覆に剥離・鉄筋露出、主桁に剥離・鉄筋露出やうき、橋台正面に漏水・滞水が見られる。				
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化要因	地覆の剥離・鉄筋露出は鉄筋の腐食、主桁の剥離・鉄筋露出は地覆からの漏水による鉄筋の腐食、橋台正面の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	地覆、主桁の剥離・鉄筋露出やうきは断面修復及び地覆下に水切り設置を行う。橋台の漏水・滞水は非排水型伸縮装置の補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。			
	対策費（概算）	断面修復工	360 千円	伸縮装置補修工		
管理方法	長寿命化対策として、地覆、主桁の断面修復と地覆下に水切りの設置及び伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.3					0.3				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	15	林道台帳索引番号	7	施設管理者	加美町
路線名	広江山線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	広江橋
施設の所在地	大字北	起点からの距離	860 m	建設年度	1969
供用年数	51	種別	鋼橋	形式	鋼桁橋
道路橋示方書	昭和31年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	20.45 m		幅員（車道幅員）	4.35m（3.65 m）
	施設の構造等	上部工形式	I 桁(RC床版)			
			鋼製（使用鋼材）	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工形式	不明		基礎形式	不明	
橋脚工形式	—		海岸からの距離	km		
施設の目的利用実態等	林道広江山線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					

施設の 状態等 の 概要	点検診断日	令和2年11月19日			
	調査結果	地覆に剥離・鉄筋露出やうき、橋面に土砂詰まり、防護柵に変形・欠損やボルト脱落や腐食、伸縮装置に変形・欠損、主桁や支承等に防食機能の劣化や腐食、橋台正面に漏水・滞水が見られる。			
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
劣化要因	地覆の剥離・鉄筋露出やうきは鉄筋の腐食、防護柵の変形・欠損は外力によるもの、伸縮装置の変形は除雪時のショベル等、主桁や支承等の鋼部材の防食機能の劣化や腐食は経年劣化が考えられる。				

長寿 命化 計 画 の 内 容	計画期間	令和2年度～令和11年度			
	内容	地覆の剥離やうきの断面修復、防護柵や伸縮装置の補修、鋼部材の塗装工の補修を行う。			
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。		
対策費 (概算)	断面修復工：360千円、防護柵補修工：205千円、伸縮装置補修工：1241千円、塗装工：347千円、足場工：267千円				
管理方法	長寿命化対策として、地覆の断面修復、防護柵の補修、伸縮装置の補修及び鋼部材の塗装工を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.4					0.4				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	16	林道台帳索引番号	10	施設管理者	加美町
路線名	地蔵線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	茗荷沢橋
施設の所在地	大字湯の倉	起点からの距離	30 m	建設年度	1968
供用年数	52	種別	鋼橋	形式	鋼桁橋
道路橋示方書	昭和31年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	30.0 m		幅員（車道幅員）	4.3m（ 3.6 m）
	施設の構造等	上部工形式	I 桁(RC床版)			
			鋼製（使用鋼材）	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工形式	不明		基礎形式	不明	
橋脚工形式	—		海岸からの距離	km		
施設の目的利用実態等	林道地蔵線は、地域住民の利用は見られず、交通量の極めて少ない施設である。					

施設の 状態等 の 概要	点検診断日	令和2年12月4日	
	調査結果	防護柵に変形・欠損、橋面に土砂詰まり、主桁や支承等に防食機能の劣化や腐食、沓座モルタルに欠損、橋台正面に変形・欠損や漏水・滞水が見られる。また、主桁の高力ボルトにF11Tが使用されているが脱落無し。	
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
劣化要因	防護柵の変形は車両等の外力によるもの、主桁や支承等の防食機能の劣化や腐食は経年劣化、橋台の漏水・滞水は遊間からの漏水が原因と考えられる。		

長寿 命化 計 画 の 内 容	計画期間	令和2年度～令和11年度	
	内容	防護柵の補修、主桁等鋼部材の塗装工、沓座モルタルの補修、橋台の漏水・滞水は非排水型伸縮装置の補修。	
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。	
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。
対策費 (概算)	防護柵補修工：300千円、塗装工：503千円、沓座モルタル：80千円、伸縮装置補修工：1224千円、足場工：387千円		
管理方法	長寿命化対策として、防護柵の補修、主桁等鋼部材の塗装工、沓座モルタルの補修、伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の点検を行う。点検時には高力ボルト脱落の有無の確認も行うこと。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行うこと。		

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.4					0.4				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										

個別施設整理番号	17	林道台帳索引番号	13	施設管理者	加美町
路線名	桧沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	北浦橋
施設の所在地	大字北	起点からの距離	50 m	建設年度	1971
供用年数	49	種別	鋼橋	形式	鋼桁橋
道路橋示方書	昭和31年度版	橋格（設計荷重）	TL14	橋下条件	河川

施設概要	施設規模	橋長（支間長）	50.0 m		幅員（車道幅員）	4.8m（ 4.0 m）
	施設の構造等	上部工形式	I 桁(RC床版)			
			鋼製（使用鋼材）	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工形式	不明		基礎形式	不明	
橋脚工形式	不明		海岸からの距離	km		
施設の目的利用実態等	林道桧沢線は、山間部に稲田の耕作地があり農作業等に利用されているが、交通量は少ない施設である。					

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年12月3日				
	調査結果	地覆に剥離・鉄筋露出、防護柵支柱に破断、主桁や支承等に防食機能の劣化や腐食、主桁に遊間異常、沓座モルタルに欠損、床版に漏水・遊離石灰、橋台に漏水・遊離石灰や剥離・鉄筋露出やひびわれが見られる。また、主桁の高力ボルトにF11Tが使用されているが脱落無し。				
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化要因	地覆や橋台の剥離・鉄筋露出は漏水・滞水による鉄筋の腐食、防護柵支柱の破断は角パイプにたまった水の凍結膨張、主桁等鋼部材の防食機能の劣化や腐食は経年劣化、主桁の遊間異常は下部工や上部工の異常変動または架設時からのもの、床版の漏水・遊離石灰や剥離・鉄筋露出は遊間及び排水パイプ周りからの漏水、橋台の漏水・遊離石灰や剥離・鉄筋露出は遊間からの漏水が原因と考えられる。				

長寿命化計画の内容	計画期間	令和2年度～令和11年度				
	内容	地覆や橋台や床版の剥離・鉄筋露出は断面修復、防護柵の補修、主桁等鋼部材の塗装工、主桁の遊間の確保の補修、床版の漏水・遊離石灰は断面修復、遊間からの漏水に伸縮装置の補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。交通量や他橋梁との優先度を考慮して、令和7年度までには実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 健全性の診断結果IIより優先度は「中」とした。			
	対策費（概算）	断面修復工：4320千円、防護柵補修工：500千円、塗装工：936千円、遊間異常補修工：100千円、伸縮装置補修工：1360千円、足場工：720千円				
管理方法	長寿命化対策として、地覆・橋台・床版の断面修復、防護柵の補修、主桁等鋼部材の塗装工、主桁遊間の補修、伸縮装置の補修を行うとともに5年に1回の定期点検を行う。点検時には高力ボルト脱落の有無の確認も行うこと。また、橋面の土砂詰まり等の清掃維持作業を適切に行うこと。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）	0.4					0.4				
対策内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考										